

平成 18 年 5 月 1 日

5 月の技術対策（水稻）

ＪＡきたそらち・ＪＡ北いぶき
空知農業改良普及センター北空知支所

1 育苗後半の管理

最新の 1 か月予報では、5 月の天気は数日の周期で変わり、気温は平年並、降水量も平年並となっていますが、気温の変化が大きいのもこの時期の気象です。

このことから、育苗後半は、「高温による軟弱徒長苗や不時出穂を避ける」、「低温、霜害を避ける」両方に対応した管理が求められます。特に、晴天が予想される日は、早朝からハウスを開放する等の対策もとってください。

（1）育苗後半の管理

表 1 育苗様式別の育苗管理の要点（1.6 葉～移植まで）

育苗様式			成 苗				中 苗			
項 目			本葉1.6～3.5葉		本葉3.6葉～移植		本葉1.6～3.0葉		本葉3.1葉～移植	
目 標			葉数の増加		苗の充実硬化		苗の徒長防止		苗の充実硬化	
管理の要 点			高温・低温や過湿・過乾を避け、換気を十分に行う。		かん水を適時行い、高温管理を避け、外気温に馴らす。		高温・低温や過湿・過乾を避け、換気を十分に行う。		かん水を適時行い、高温管理を避け、外気温に馴らす。	
管 理 内 容	基 準	温	昼	18～20	昼	18 ～ 外気温	昼	18～20	昼	18 ～ 外気温
		夜	10 以上	夜	10	夜	10 以上	夜	10	
	目 安	20 以上や晴天時は換気する。 2.5葉期以降は25 以上にしない。		外気温と同じにする。 25 以上の温度にしない。		20 以上や晴天時は換気する。 2.5葉期以降は25 以上にしない。		外気温と同じにする。 25 以上の温度にしない。		
	方 法	晴天時は早朝から肩・裾換気をし、夕方は早く閉じる。		昼夜ともハウスの肩・裾を大きく開放する。晩霜に注意する。		晴天時は早朝から肩・裾換気をし、夕方は早く閉じる。		昼夜ともハウスの肩・裾を大きく開放する。晩霜に注意する。		
か ん 水	基 準	晴天時の早朝に十分かん水し、余分な水分は蒸発させる。				晴天時の早朝に十分かん水し、余分な水分は蒸発させる。				
	目 安	夕方にはポット内の土が乾くようにする。				早朝、葉先に水滴の付着が無くなった時にかん水する。日中、葉身の展開が悪くなった時はかん水する。				
	方 法	1.6～2.5葉までは部分乾燥に注意する。 3 葉以降は置床の水分で十分生育するので2～3日毎のかん水でも良い。				かん水は一度に多量に行い、床土全体に浸透させる。早朝にかん水し、 低温が予想される時や午後は避ける。				

注意

- 1) ほしのゆめ等の徒長しやすい品種は、1.6 葉以降の温度管理は基準の下限（日中 18 程度）で行う。
- 2) 全品種とも、2.5 葉期以降は 25 以上の高温を避ける。ハウスを開放しても温度が下がらない場合は、日中かん水して温度を下げる（5 程度、2 時間程度、温度が低下します）。

（2）育苗追肥

中苗は追肥時期が遅れると苗の老化が早まります。葉数を確認し追肥時期が遅れないように注意してください。

磷酸過剰症状が出ている苗は、硫安を追肥して下さい。硫安追肥後は、水洗いを兼ねてかん水し、肥料焼けをしないように注意してください。

各育苗様式とも、移植 3～5 日前に追肥を行い移植してください。

表2 育苗様式別の追肥時期

育苗様式	中 苗		成 苗
	箱マツ 箱ポット	型 枠	ポット
追肥時期			
1.0～1.5葉		-	-
2.0～2.5葉		-	-
3.0～3.5葉	○	○	○

表3 追肥肥料銘柄と追肥量

項目	追 肥 量	
	箱(枠)当たり	坪当たり
肥料銘柄		
N P 化成57号	7 g	1 2 0 g
尿素複合液肥 (18-6-0)	100倍液で 0.5リットル	100倍液で 9リットル
硫 安	5 g	9 0 g

1) : 必ず追肥する。○：中苗箱ポットは必要に応じ追肥をする。

他の育苗様式は、移植の3～5日前に追肥をする。

2) 成苗箱マツ・成苗箱ポットの追肥は、中苗箱マツ・箱ポットに準じて行う。

2 本田施肥

(1) 施肥の基本的な考え方

高品質米生産(蛋白6.8以下)を意識した施肥に努めてください。

土壌診断に基づく施肥の実施→適正な窒素施肥、ケイ酸施肥が可能です。

土壌診断値がない場合は、施肥ガイドに基づく施肥を実施してください。

有機物施用を考慮した減肥を実施→稲わら5年鋤込みで窒素1kg/10a 減肥が必要。

稲わら10年鋤込みで窒素2kg/10a 減肥が必要。

遅効性肥料は避ける→ 尿素含量が高い肥料は生育を遅らせます。アンモニア態窒素肥料を使用してください(砂壤土等の秋落ち水田は除く)。

側条施肥の導入→ 初期生育を促進し、収量安定・高品質米生産が可能になります。土壌型にあった側条施肥割合にしてください。

(2) 復元田の施肥

復元田で蛋白を低下させるために、施肥ガイドを参考に減肥してください。

表4 復元田(田畑輪換)に対する窒素施肥(北海道施肥ガイド)

土壌区分	前作物の種類	復元後の年数	標準施肥に対する施肥(%)	施肥配分(%)	
				全層	側条
グライ土 灰色台地土	豆類、麦類、馬齢しょ	1～2年	60～70	50	50
	てん菜茎葉鋤込み、牧草、野菜	1～2年	40～60		
	秋まき小麦春鋤込み(起生期)	1年目	50		
灰色低地土 褐色低地土 火山性土	豆類、麦類、馬齢しょ	1年目	70～80		
		2年目	100		
	てん菜茎葉鋤込み、牧草、野菜	1年目	50～70		
		2年目	60～80		
泥炭土	秋まき小麦春鋤込み(起生期)	1年目	60		
	豆類、麦類、馬齢しょ	1～3年	50～60		
	てん菜茎葉鋤込み、牧草、野菜	1～2年	30～50		
	秋まき小麦春鋤込み(起生期)	1年目	40		

1) 透水性の大きい礫質土壌では減肥しない。 2) 磷酸・カリの施肥量は標準施肥に従う。

3) 秋まき小麦春鋤込みの2～3年目は麦類に準ずる。

3 移 植

(1) 移植時の病虫害防除

病虫害防除所は、本年「ワバ・ヤガ」の発生がやや多いと発表していますが、必要に応じ初期害虫の移植前処理を行ってください。

表5 移植時の害虫防除剤

薬 剤 名	育 苗 様 式	対象害虫(※指導参考、登録あり)				使 用 時 期	使用 回数	処理濃度 処理量
		イモムシ ゾウムシ	イトロ オムシ	イモギ カエ	ヒメビ ウカ			
アトマイヤー箱粒剤	成苗	●	●	○	●	移植2日前～当日	1	30g/箱
	中苗	●	●	○	●	移植2日前～当日	1	50g/箱
ダントツ水溶剤	成苗	○	●	○	○	移植3日前～当日	1	200倍300ml/箱
	中苗	○	●	○	○	移植3日前～当日	1	200倍500ml/箱

注1 殺虫剤を箱施用、土壌かん注した育苗ハウスでは、ポジティブリスト制度の関係で、後作野菜等は栽培できません。(ポジティブリスト制度は、平成18年5月29日からはじまります！)

注2 各JA、各生産組合で使用農薬を指定している場合は、これに従ってください。

(2) 低温時は移植しない

移植早限から5月末日迄が適期移植期間です。昨年のように低温傾向になった場合は、移植を避けてください。

また、移植期間中に低温になった場合も、移植を中止する勇気が必要です。

昨年の経験を生かし、「苗の老化防止、十分な硬化(外気馴らし)」も行ってください。

(3) 移植直後～活着期の水管理

時 期	目 標 水 温	水 深	水管理の注意事項
移植直後～ 2日目	22～25 (15 以上)	通常：2～3 cm 低温・強風・晩霜予想時： 草丈の3/4の水深	移植直後に入水する。 止水管理をする。
移植3日目～ 活着期	23～25 (15 以上)	通常：3～4 cm 低温・強風・晩霜予想時： 草丈の3/4の水深	止水管理をする。 畦畔等の漏水を確認する。
活着期～	23 (昼間30 以上 夜間15)	通常：4～5 cm 低温・強風・晩霜予想時： 草丈の3/4の水深	止水管理をする。 かんがいは夜間から早朝に行う。 気象情報に注意し、事前に入水し 水温を上昇させる。

表6 地域の移植早限の目安(アタス平年値)

育苗様式		移植早限	深 川	沼 田	幌加内
成 苗	ホ ッ ト	11.5	5月14日	5月17日	5月20日
	箱ホ ッ ト	12.0	5月17日	5月20日	5月23日
中 苗	箱マ ッ ト	12.0	5月17日	5月20日	5月23日
	型 枠	12.0	5月17日	5月20日	5月23日

)移植早限は、移植後5日間の平均気温が表の気温に達する日。

4 本田除草剤の使用

除草剤使用の注意事項

補植に日数がかかると、除草剤の使用時期が遅れます。適正栽植密度で移植した水田は、補植は四隅程度で終わらせてください。

除草剤散布は入水直後に行わず、水温が10 以上に上がってから散布してください。水温上昇が悪いと剤の拡散性が悪く、濃度の濃い部分に薬害を生じる恐れがあります。

除草剤散布前の入水は、4日間以上「止水」ができるように入れてください(水深6～8 cm)。

極端な浅植や土の戻りが悪く根が露出している場合は、使用時期を遅らせてください。

移植後の低温や強風等で「植え傷み」が生じている場合は、使用時期を遅らせてください。

SU抵抗性ホタルイは、生育が早いので発生に注意し、適期内に除草剤を散布してください。

表7 初期除草剤・初中期一発除草剤の使用法(防除が이드掲載除草剤)

区分	除草剤名 (太字はSU除草剤)	使用時期(+移植後日数を示す)														10a当たり 使用量						
		移植					+5						+10					+15				+20
初期 剤	草笛フロアブル																					300ml(体系前処理)
	シグマ乳剤																					300ml
	シキニフロアブル																					300ml(体系前処理)
	ソルネット1kg粒剤																					1 kg
初一 期発 剤	ハチクフロアブル																					500ml
	ウリホス1kg粒剤																					1 kg
	ウリホス粒剤15																					3 kg
初中 期一 発 剤	ウイスフロアブル																					500ml
	スマートフロアブル																					500ml
	グイマンフロアブル																					500ml
	トレイブラス顆粒																					80g(散布液500ml)
	ミスターホームフロアブル																					500ml
	トップガンフロアブル																					500ml
	スパークスター1kg粒剤																					1 kg
	ホス1kg粒剤																					1 kg
	リパル1kg粒剤																					1 kg

注1 各JA、各生産組合で使用除草剤を指定している場合は、これに従ってください。